

浄相院
だより

寿光

第56号

平成24年3月5日

発行：浄相院
畑中芳隆

〒332-0035
川口市西青木1-10-34
TEL 048 (251) 5984
FAX 048 (251) 5792



おが
拝む

住職 清譽芳隆

衆生仏を礼すれば、仏これを見給う

衆生仏を称うれば、仏これを聞き給う

衆生仏を念ずれば、仏も衆生を念じ給う

法然上人が師と仰ぐ高僧に中国の善導大師があります。浄土の教えを説いた先駆者です。その善導大師のことは冒頭に紹介しました。

私たち《衆生》が仏さまを拝む《礼拝する》と仏さまは見ていてくれる

私たち《衆生》が仏さまの名を称えれば《ナムアマミダブツ》仏さまは聞いてくれる

私たち《衆生》が仏さまのことを思えば《念ずれば》仏さまも私たちのことを思ってくれている、という意味があります。

先日増上寺の近くのお寺で一千礼拝の会と

いう行事がありました。ほぼ一日をかけて仏さま《阿弥陀さま》を一千回礼拝するといふものです。礼拝とはナムアマミダブツと声に出しながら立つて、座って仏さま《阿弥陀さま》を拝むことです。ひとつの礼拝につき三回節をつけてお称えるので一千回の礼拝には三千遍のお念仏が必要になります。

私たちが参加したのは最後の三時間でしたがそれでも三百回の礼拝をすることができました。たかだか三百回ではありましたが動作をつけてのものですので二時間もすると相当疲れてきます。暗闇の中でろうそくの灯をたよりにひたすら阿弥陀さまを見ながらの所作です。

朦朧もうろうとしてもうだめだと思つて顔を上げるとそこには阿弥陀様のお顔があつて私を見てくれています。その穏やかな表情から力を貰つてまた続けます。さらに続けているときすがに意識がふうつと薄れてゆく感覚になります。このまま倒れてしまうかもしれないと思えてきます。阿弥陀さまの前で念仏称えながらであればこのまま命果しても本望か、

と一瞬よぎりますが次の瞬間また阿弥陀様はつきりと見えるようになります。やうやうまたお迎えには到らなかつたのでした。

暗闇の中で頼もしいのはともに行じている人たちの念仏の声です。その日はアジアの国の出身者も数名あつて総勢三十名程でしょうか、皆一心に称えています。私たちのナムアマミダブツの一声一声が、その思いが確実に仏さまに伝わっているという確信が得られて、同時に阿弥陀さまからの確かに見ているぞという声なきメッセージを受けて、それが安心感となつてきます。

翌日は足の痛さに、身体のだるさに悩まされることとなりますが、それでもこのすがすがしさや安心感を皆さまがたと共有できればありがたいと存じます。そんな機会を当山の行事のなかにも組んでいきたいと思ひます。

例年になく寒い日が続いています。

あたたかな春のお彼岸を迎えられますよう皆さま方がご自愛されますよう念じております。

合掌

